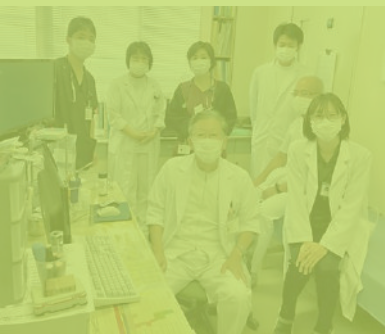


連携病院での研修



上野病院での研修を終えて

臨床研修医 高橋広太（2021年度採用）

上野病院精神科で4週間研修をさせていただきました。指導医の先生方、医療スタッフの方々、患者さん、それぞれからたくさんのことを学び、研修は非常に実りの多いものになりました。

日々の研修は外来診療やマンツーマンでのレクチャーを中心に精神医学を学ばせていただきました。どの先生方も知識豊富かつ勉強熱心で私はただただ感心するばかりでした。うつや認知症に見えても器質的疾患を見逃してはいけないこと、統合失調症での妄想で患者さん自身が本当に怖い思いをしていること、私が知らなかったことは山ほどありました。そんな私に温かく丁寧に一から教えてくださいました。レクチャーはたくさんの方の先生から各回一つのテーマについて知識を得ることができます。質問も自由にでき、知識をつけるだけでなく、精神科という分野の広さや深さを感じることができました。

また、精神科ならではの活動から学んだこともあります。精神科では単に病気をよくするだけではなく社会復帰も非常に重要な課題になります。職場や家庭での環境調整、周りの人とのコミュニケーションを大切にグループ活動、病気とよりよく付き合っていくための認知行動療法、心身ともに元気にしていく日々の運動、これらは主治医1人だけではできません。ソーシャルワーカーさんや作業療法士さんなどたくさんの方が関わって患者さんの社会復帰をサポートしています。実際にリワーク活動やMCI(軽度認知障害)デイケアなどに参加させていただき、利用者さんとの関わり方やプログラムの作り方

などを学びました。MCIデイケアでは頭や体を使いますが、私も利用者さんと一緒に課題に取り組ませてもらい、とても楽しい経験となりました。

研修期間、担当患者さんを持たせていただきましたが、それぞれの疾患背景だけでなく社会背景も考えながら接し方を学ぶことができました。実際にじっくりと話すことでその人の楽しいと思えること、困っていることなどが見えてきました。また一緒に趣味の話をしたり、最近のニュースの話をしたり他愛ない話もしました。これらは特に治療には関係ありませんが、笑顔で話をする患者さんを見て医師と患者という関係以前に人と人という関係も大切にしたいという最初に医師を志したときのような思いを改めて抱きました。

最後に伊賀の魅力についてお話ししたいと思います。伊賀は三重県のなかで奈良寄りにあります。ここでは田舎の落ち着いた雰囲気を感じることができます。伊賀の名物は伊賀牛と忍者です。伊賀牛は格別に美味しいです。忍者が描かれた電車やバスは見つかるだけで楽しい気分になります。たまに街中に忍者が隠れているので、伊賀に来られた際は是非忍者を探してみしてほしいと思います。

最後になりましたが、短い研修の中で多くの人の温かい思いに触れることができました。先生方、スタッフの方々、患者さん、関わりを持ったみなさんに感謝しています。この思いを大切にこれからも頑張っていきたいと思います。

これをもって研修の振り返りとさせていただきます。最後まで読んでいただきありがとうございました。



国保中央病院での研修を終えて

臨床研修医 辻本虹歩（2021年度採用）

私は、1年目の11月に国保中央病院で研修をさせていただきました。

国保中央病院は、奈良県西和医療センターよりも小児科専門医の人数が多く、午前の一般外来では初診の患者さんの診察枠が設けられています。そのため、発熱、腹痛、下痢、皮疹など小児でよく見られる症候への対応を数多く見学することができました。さらに、外来患者の採血やルートキープは主に研修医が行うため、毎日多くの手技を経験することができました。当直では指導医の監修下で患者さんへのファーストタッチや病状説明なども多く経験させていただきました。

また、アレルギーを専門としている先生が2人いらっしゃるため、食物アレルギーに対する入院での負荷試験、気管支喘息やアトピー性皮膚炎に対する慢性管理などもしっかりと学ぶことができました。神経や内分泌の専門外来も行われており、てんかんや低身長、思春期早発症などの内分泌分野の外来見学も行うことができました。

奈良県西和医療センターと異なる点として、院内でできる検査の項目が少なく、病院内の診療科も少ないことが特

徴だと感じました。手術適応のある患児や侵襲の大きい処置が必要な患児は他院にすぐに転院となったり、そもそも救急要請を受け入れられないということが何度かありました。そのような場合に、どこまでの処置を院内で行うか、どのタイミングで専門的な治療介入ができる機関に送るの

かという判断が重要となります。診療科が充実していない病院での対応について学ぶことも非常に重要であると感じました。私は将来の選択肢として小児科を考えているため、将来につながる貴重な経験をたくさんさせてもらえたと感じています。研修を受け入れてくださった先生方、事務の方々、本当にありがとうございました。



三浦市立病院での研修について

臨床研修医 辻本虹歩（2021年度採用）

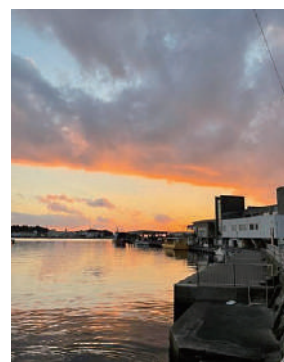
私は、1年目の12月に三浦市立病院で研修をさせていただきました。

三浦市立病院は漁港から歩いて20分程度の場所に存在し、奈良県とは全く違った環境にある病院です。研修医は主に消化器外科で研修をします。研修医は虫垂炎切除術や鼠径ヘルニアの根治術の執刀、CVポートの挿入などの手技をさせてもらえますが、私は運悪くそれを行うタイミングがなかったため、手術の介助や術後管理を主に行っていました。手術がない日には救急外来で患者さんの対応をしたり、訪問診療に同行したり、癌患者さんへのICに同席したりと、様々な経験をすることができました。また、慢性期の患者さんの入院も多いため、退院調整のために何度もご家族と話し合いをしたり、訪問診療、訪問看護の制度利用について他職種でのカンファレンスで相談したりと、地域医療ならではの医師の役割も学ぶことができました。

全く知らない土地で研修することに対する不安は強かったですが、先生方も事務の方々も街の方々もとても親切で安心して研修することができました。ご飯が美味しいお店のことや、おすすめの観光場所などを教えていただ

き、休日は色々なお店に行き美味しい海鮮を食べたり、横浜や江ノ島に観光に行ったり、公私共に非常に充実した1ヶ月を送ることができました。

三浦市立病院での1ヶ月間は私の医師人生にとって非常に重要な1ヶ月間になったと感じています。このような貴重な経験をさせてくださって、本当にありがとうございました。



三浦市立病院での地域医療研修

横浜から京急電車で横須賀を越えて南に走ると、車窓から太平洋が見えてきます。神奈川県三浦市立病院は、三浦半島の先端にあるマグロ漁業が盛んな港町にある病院です。三浦市立病院と奈良県西和医療センターは姉妹病院の関係にあり、研修医だけでなく、看護師も相互に短期研修を行っています。三浦市は神奈川県のなかでは、周囲が海に囲まれたいわゆるへき地に相当する場所にあるため、三浦市立病院が唯一の市民が頼りにする総合医療機関になっています。高齢化が進む漁業の町ですので、地域医療が特に重要になっています。三浦市立病院の地域医療科は、地域の巡回診療や、その巡回診療のなかで急性期医療が必要になった患者さんの入院診療まで広く仕事をされています。研修医は、この病院の地域医療研修で一步先の地域医療を経験することで、奈良県での地域医療にその経験を必ず活かすことができると思います。また、三浦市立

病院は、外科医でとても親しみやすい小澤幸弘院長がいらっしゃる。小澤先生のおかげで、研修医も楽しく充実した研修生活が送れています。



三浦市立病院での研修について 臨床研修医

三浦市立病院は神奈川県の三浦半島の先端に位置する漁業が盛んな港町に位置する病院であり、そこで唯一の総合病院として地域医療を行っています。私は奈良県西和医療センターの地域医療研修では三浦市立病院を選択できたことを知っていたので、自ら希望して1年目の9月に研修に伺いました。

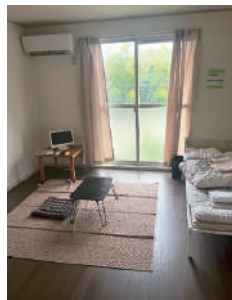
三浦市立病院では基本的には消化器外科で研修を行います。そこで上級医の先生方とチームで回診や手術を行います。手術では執刀医の介助や縫合の手法はもちろん、虫垂炎切除や鼠径ヘルニアの根治術、C Vポート挿入などの手術があれば実際に執刀させていただくこともできるそうで、私は最終週にC Vポート挿入術を経験させていただきました。また、外科の研修だけでなく、志望科に合わせて初診外来や整形外科の手術をさせていただいたり、リハビリや心エコー検査を見学したり、訪問診療に同行したりと地域医療研修ならではの経験をたくさん得ることができました。当直では奈良県西和医療センターでは経験することが少ない外科症例や海にまつわる症例などを経験する機会が多くあり、知識を補完する意味でも

山口 隆也 (2023 年度採用)

多様な症例を学ぶことができました。

比較的早い時期の地域医療研修であり、いつもの同期がいない慣れない環境での研修は正直不安でいっぱいでした。しかし病院の先生方は診療科問わず喜んで迎えてくださり、看護師さんや薬剤師さん、事務の方などの他職種の方も親切に話しかけてくださったおかげですぐに環境に馴染むことができ、楽しく研修を行うことができました。普段は病院の寮で過ごし、週末や当直明けの日には三浦の美味しい海鮮のお店に行ったり、横浜や東京の方で観光したりと充実した生活を送ることができました。

まだまだ知識も乏しく未熟な自分の研修をこころよく受け入れていただき、貴重な経験をさせていただいた三浦市立病院の職員の皆様には感謝しかありません。この経験は私の医師人生にとって重要なものであり、三浦市立病院での研修を通して大きく成長することができました。地域医療研修の1ヶ月間で学んだことを今後の診療にも活かしていきたいと思っています。本当にありがとうございました。



三浦市立病院での地域医療研修を終えての感想 臨床研修医 畠 健悟 (2020 年度採用)

三浦市立病院では主に消化器外科として研修させていただきました。同科としての研修はもちろん、消化器内科的疾患・悪性腫瘍末期の慢性期医療など幅広く学ぶことができました。消化器外科としては鼠径ヘルニアの Mesh plug 法手術の執刀や CV ポート挿入術をさせていただけることが印象でした。その他にも整形外科の手術・処置の手伝いや、在宅診療に同行させていただいたり、当直では内科・外科問わずファーストタッチをさせていただいたりと地域医療ならではの経験を得ることができました。

また、慣れない環境で戸惑う私でしたが他診療科の先生方にも話しかけていただき、おすすめの店などを教えていただいたりしました。休日は近くの市場で珍しく美味しい

マグロをはじめとした海鮮を食べたり、近くの島を散歩して海などの自然を満喫することができとても楽しい1ヶ月でした。また、いつか観光目的でも訪れたいと思います。

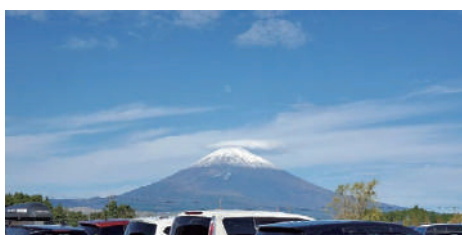
COVID-19 で緊急事態宣言がなされ、現場に緊張感や混乱もあり大変な時期ではあったと思いますが、研修を受け入れていただき三浦市立病院の職員の皆様方に感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。この経験を活かして日々精進していきたいと思っています。



漁村での作業



三浦市立病院全景



三浦市から見える富士山



三浦市はマグロの町として有名

ハートランドしぎさん(精神科)での研修

ハートランドしぎさんでの研修を終えて 臨床研修医 山下 真稔 (2020 年度採用)

私は、約1ヶ月間ハートランドしぎさんで精神科研修させていただきました。患者さんに対しての接し方や精神疾患に対しての考え方等、多くの事を学ぶことができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。私が今回の研修で学んだことを何点か記したいと思います。

まずは1人で予診をとることから始まりました。時間をかけて自分なりに予診をとり、その後に実際の診察を見学させていただきました。見学後は指導医からのフィードバックがあり、疑問点についても丁寧に答えいただきました。それらのやり取りの中で「患者さんに対してどのような言葉遣いがいいのか」「精神疾患患者に対して何を心掛けて対応しているのか」「どのような情報が重要であるのか」等、色々な発見がありました。私にとっては、精神疾患患者のみならず全ての患者への接し方を学ぶ良い機会となりました。

受け持ち担当した入院患者さんは外来見学した人も多く、入院前後での変化を観察することができました。また、任意入院のみならず、医療保護入院や措置入院等、様々な入院形態に立ち会いました。精神保健福祉法に基づいた入院を初めて目の当たりにしたことは強く印象に残っています。

また、様々なレクチャーを受けたり、リハビリの様子を観察したり、研修会にも参加するなど、多くの事を学ばせていただきました。何よりも私がどのような質問をしても全職種の方々がいつも優しく接していただきました事を、この場をお借りして御礼申し上げます。精神科研修で学んだ事を糧にこれからも精一杯頑張ります。短い間でしたが、本当にありがとうございました。



やわらぎクリニックでの地域医療研修

やわらぎクリニックでの地域医療研修を終えて 臨床研修医 渡邊 正士 (2020 年度採用)

初期研修 4 年目の渡邊と申します。初期臨床研修では 1 ヶ月間の地域医療研修が必修で、奈良県西和医療センターでは、三浦市立病院（神奈川県）や国保中央病院（奈良県）ややわらぎクリニック（奈良県）で研修できます。また、奈良県西和医療センターの研修プログラムは研修医の要望に添ってくださり融通が利くので、地域医療や総合診療科に興味のある方は 1 か所に加えて 2 か所以上で地域医療研修ができます。私は 2020 年 8 月の 4 週間、奈良県三郷町のやわらぎクリニックに行きましたのでその話をさせていただきます。

やわらぎクリニックは、特定の臓器・症状・年齢・性別などにとらわれることなく、あらゆる患者さんの健康問題に総合診療科として対応されています。また、必要に応じて後方医療・介護医療と連携し、安全で良質な医療・福祉を提供されています。単に患者さんの病いを診るだけでなく患者さんと対話を重ねながら、多職種でアイデアを出しながら患者さんの価値観にあった医療・福祉を追及されています。

研修内容としては、通院されている方の外来を担当したり、指導医の先生と一緒に往診に行ったり居宅介護支援事業所の方々と介護老人保健施設や特別養護老人ホームに行きあまり普段みない実際の現場を見学し話を伺うことができます。外来研修では、見学だけでなく主に自分で

問診や身体診察をして病態を推測して薬を処方したり、時には他の地域の中核病院に紹介することもありました。その際、困ったことや悩ましいことがあれば指導医の北和也先生と一緒に考えてくださり優しくフィードバックしてくださります。また普段奈良県西和医療センターでは入院から退院までのアセスメントやプランを考えることはありますが、退院後のことや介護のことはあまり考えたことはありませんでした。しかし、居宅介護支援事業所の方々に実際に現場に連れていっていただき患者さんやご家族のニーズに合わせた施設やリハビリのプランなどを考える際の注意点や介護認定に必要な主治医意見書の書き方のポイントをケアマネさんから教えていただきました。ここで書ききれないほどのことを学びました。普段考えない観点が非常に多く 1 か月間あっというまに過ぎ充実した日々を過ごすことができました。

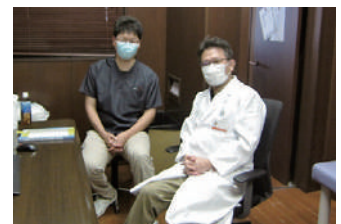
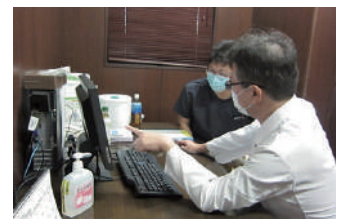


上野病院(精神科)での研修

上野病院での研修を終えて 臨床研修医 畠 健悟 (2020 年度採用)

1 年目の夏に 1 ヶ月間上野病院の精神科で研修させていただきました。研修医としてスタートを切ったばかりで外病院へ行くことに最初は多少の戸惑いはありましたが、指導医や看護師さんをはじめ職員の皆様はとてもやさしく、雰囲気良かったためすぐに馴染むことができました。外来陪席や病棟の患者の診察、指導医の先生方によるレクチャー、うつ病患者のリワークプログラムなどの各種精神療法の体験を通して、精神科医師の仕事や精神科疾患について理解を深めることができました。また、消化器内科志望の私に合わせて、せん妄・アルコール離脱せん妄の講義をしてくださり、アルコール依存症患者の初診の陪席などを経験させていただきました。研修中に疑問に思ったことはもちろん、内科で研修していた時の睡眠薬や不穏時の処方の疑問なども快く指導していただき今後の研修にも生かしていきたいと考えています。高齢化及びストレス社会が

加速しつつある昨今において、精神科とそれ以外の科のボーダーラインは希薄になりつつあります。認知症患者のがん治療など、精神科に入局しなくとも精神病患者を診る機会は少なからず訪れると思います。患者を適切に精神科に紹介するために、あるいは精神科と共観で患者を診察・治療していくために非常に有意義な 1 ヶ月になったと思います。



奈良県総合リハビリテーションセンターでの 地域医療研修

奈良県総合リハビリテーションセンターでの研修を終えて 臨床研修医 中川龍太郎 (2019 年度採用)

私は2年目の秋に1ヶ月間、地域研修の枠として奈良県総合リハビリテーションセンターで研修させていただきました。元々、奈良県西和医療センターで研修している際に、脳卒中や神経変性疾患を患った患者様が急性期の治療を終えた後、“回復期リハビリテーション病院に転院”という転帰をとっていたのを見て、その後どのように回復していくのかを見たいと言うのが動機でした。

そのような希望に対して、指導医の先生方は柔軟に対応してくださり、主に脳神経内科や循環器内科の先生にご指導いただきました。研修内容としては、患者様の診察、リハビリテーション（PT、OT、ST）の見学が主でした。

新規入院の患者様に対しては指導医の先生について、一通りの神経診察をさせていただきます。脳神経内科の先生にご指導いただけるので、2年目でなんとなくで固まりがちな神経診察を見直すことができ、非常に勉強になりました。リハビリテーションに関しては、そもそもこれまで長時間しっかりと見学させてもらうことは無かったため、新鮮なものでした。急性期病院と違い、患者様の日辺りのリハビリ量は約4倍確保されているので、例えば歩行時に膝折れを起こしていた方が2-3週間でもかなり安定して歩けるようになる等、効果が如実に表れているところを目の当たりにしました。

他には外来検査（心エコー、下肢静脈、頸動脈のエコー

など）もご指導いただきました。奈良県西和医療センターでは、これらをマンツーマンで御指導いただくことは無いので非常にありがたい経験でした。さらに、何となくでしか認識できていなかった高次脳機能障害について、脳神経内科、精神科の先生方から詳しくご説明いただくことで、また外来・病棟で患者様を診察させていただくことで、明らかに理解が深まったと感じています。

総括ですが、脳卒中患者の転帰を実際に見ておくことは、脳神経系に進むなら絶対必要でしょうし、内科系に進むにしても重要ではないかと感じました。そのうえで同病院機構にある奈良県総合リハビリテーションセンターでの研修は非常に有意義な期間になると考えます。

（補足ですが、同院では整形外科の手術、術後のリハビリテーションも行っておられます。私は上記の理由から脳神経疾患の患者様ばかりを診させていただきましたが、希望に応じて柔軟に対応いただけると思います。）

以上、研修内容報告とさせていただきます。最後に、ご指導賜りました、脳神経内科の森下先生、杉江先生、内科の山野先生、佐々木先生、精神科の松浦先生、石岡先生、院長の川手先生、その他、温かくご指導いただきましたリハビリテーションの先生方、スタッフの方々に御礼申し上げます。誠にありがとうございました。



学会施設認定および 厚生労働省による特殊治療施設認定

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| 植込み型除細動器移植認定施設 | 日本心臓血管麻酔学会心臓血管麻酔専門医認定施設 |
| エキシマレーザ冠動脈治療認定施設 | 日本腎臓学会研修施設 |
| 冠動脈バイパス術認定施設 | 日本整形外科学会認定専門医制度研修施設 |
| 経皮的冠動脈形成術認定施設 | 日本超音波医学会超音波専門医研修施設 |
| 経皮的冠動脈ステント留置術認定施設 | 日本透析医学会認定専門医制度認定施設 |
| 経皮的カテーテル心筋焼灼術（カテーテルアブレーション）
認定施設 | 日本動脈硬化学会専門医制度教育病院 |
| 三学会心臓血管外科専門医指定関連施設 | 日本内科学会認定医制度教育病院 |
| 脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術認定施設 | 日本内科学会認定制度教育関連施設 |
| 日本 IVR 学会専門医修練施設 | 日本脳神経外科学会専門医研修プログラム施設 |
| 日本医学放射線学会放射線科専門医修練機関 | 日本脳卒中学会認定研修教育施設 |
| 日本大腸肛門病学会認定施設 | 日本泌尿器科学会泌尿器科専門医基幹教育施設 |
| 日本眼科学会研修指定施設 | 日本皮膚科学会認定専門医研修施設 |
| 日本がん治療認定医機構認定医研修施設 | 日本不整脈心電学会認定不整脈専門医研修施設 |
| 日本救急医学会救急科専門医指定施設 | 日本ペインクリニック学会指定研修施設 |
| 日本胸部外科学会認定医制度指定施設 | 日本麻酔科学会麻酔科認定指導病院 |
| 日本外科学会外科専門医制度修練施設 | 日本脈管学会認定訓練施設 |
| 日本耳鼻咽喉科学会認定耳鼻咽喉科専門医制度研修施設 | 日本病理学会研修登録施設 |
| 日本消化器外科学会専門医制度指定修練施設 | 日本臨床腫瘍学会認定研修施設 |
| 日本消化器病学会専門医制度関連施設 | 腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術認定施設 |
| 日本循環器学会認定循環器専門研修施設 | 腹部大動脈瘤ステントグラフト実施認定施設 |
| 日本小児科学会認定小児科専門医制度研修施設 | 経皮的中隔心筋焼灼術認定施設 |
| 日本小児神経科専門医研修関連施設 | ペースメーカー移植術認定施設 |
| 日本心血管インターベンション治療学会認定研修施設 | 両心室同期ペースメーカー移植認定施設 |
| | ローターブレード認定施設 |



38 Nara Prefecture Seiwa Medical Center

学術教育活動

大和川メディカルアカデミー

1年に1回、地域の医療機関の先生方と一緒に学術集会です。研修医はここでの発表は必須です。症例報告の準備では、まとめ方や発表の仕方、質疑応答での姿勢など指導医から丁寧に指導してもらい、実際の発表を行います。一般の学会発表も多く経験してもらいますが、まずは、このアカデミーでの発表を経験してください。



奈良県西和医療センター 医学雑誌

奈良県西和医療センター医学雑誌は年1回発行する学術雑誌です。研修医は毎年1編以上の論文投稿が義務付けられています。初期研修の2年間で必ず2編の論文を仕上げるのです。主に学会の地方会や大和川メディカルアカデミーで発表した症例報告ですが、論文の書き方のイロハから指導医や上級医から指導を受けることができ、大変勉強になります。医師になっておそらく初めての論文になりますので、貴重な経験です。初期研修中に一般の雑誌にもどんどん投稿できるような論文作成能力を育てます。



▼大和川メディカルアカデミーの発表を終えて



医学生と研修医のための日本内科学会ことはじめ

(令和2年度、令和3年度、令和4年度はWeb開催)

毎年4月に開催される日本内科学会総会。そのなかに研修医のためのセッションがあります。この研修医セッションには、奈良県西和医療センターの研修医は必ず発表者として参加しています。全国学会ですので、1年間の経験のなかで、よく考え抜いた症例報告あるいは研究報告を発表します。この学会を一つの目標として1年間で磨いたプレゼンテーション力を、発表当日には発揮します。

